

へ、ビジネスの輪がひろがっています

クリアブリッジ・バイオメディックス・ジャパン株式会社 (柏市)

がん治療に貢献する先進の診断装置

ちばぎん
法人営業部
成長ビジネス
サポート室
島山晋也



血液検査による次世代がん診断装置の開発で注目を集めるシンガポールの企業で、柏の葉キャンパスで開催された国際ビジネスコンテスト「アジア・アントレプレナーシップ・アワード2012」での優勝を機に日本法人を設立。代表取締役を務める織邊さんに、日本を国際化戦略のキーマーケットに選んだ理由・目的などを伺いました。

日本の研究機関やメーカーとも連携

血液の流れによって体の中を循環している「がん細胞」を「CTC(血中循環腫瘍細胞)」といいます。当社は血液検体を濃縮し、これらの希少なCTCを「生きたまま検出・回収する装置」(シンガポール・米国両国の大学研究チームとの共同開発)を製造・販売している企業です。

極少量の血液検体を使用する装置なので、患者さんに苦痛を与えることなく、がんの早期発見や、それぞれの患者さんに最適な治療方法の判断が可能になるとともに、がんの転移を含めた術後の経過をきめ細かく観察することができるようになります。現在は研究機関などのリサーチ用として使われています。

世界有数の先端医療技術国である日本は、当社にとって非常に重要なキーマーケットです。また、日本の研究機関や医療機器メーカーと連携することによって、装置の全般的な性能をレベルアップできる可能性も高まります。高品質な製品を生む日本で認められることで、他国においても装置に対する市場性をさらに高めることができるというメリットもあると考えています。



マイクロfluidイクス
技術を活用した
CTC検出・回収装置



シンガポール本社

代表取締役 織邊重之さん



東葛テクノプラザ

アジア・アントレプレナーシップ・アワード2012の授賞式
(右はシンガポール本社の
アンドリュー・クワイ博士)

千葉県は事業を展開しやすいエリア

「アジア・アントレプレナーシップ・アワード2012」で優勝し、産・学・官が交流する東葛テクノプラザの3年間無料入居権を得たことは、大きな励みになりました。情報提供やビジネスマッチングなどのサポート体制が整っていて、これらは当社のビジネス戦略上必要であり、とても心強く思っています。

成田国際空港があり、大消費地である東京都心に近い千葉県は、外資系企業にとって魅力のあるエリアです。海外から企業が進出してくることで新しい雇用が生まれるなど、地域にもプラスの経済効果もたらされるのではないのでしょうか。